

小林りん氏による国連ハイレベル政治フォーラム(HLPF)

スピーチ概要

(1) 冒頭

- 私と共同創設者は日本初の全寮制インターナショナルスクールを創設。平和と持続可能性へ「変化を作る人間 (change agents)」を育てている。
- 千人以上のご寄付者によって支えられて、この学校は存在しており、多くの日本人の持続可能な未来への関心と情熱を物語っている。
- 我々は包摂性や多様性を重視しており、奨学金を7割以上の生徒に支給しているため、国内外の様々な家庭や背景をもつ生徒が在籍している。
- ほぼすべての課外活動は生徒主導である。なぜなら change agent を育てるにはそれしかない。

(2) 経営する学校の困難と克服

- 自分がUNICEFに勤務していた時、学校を創設したいという思いを持つ共同創設者と出会い、それを現実のものとしたが、創設当初は、金融危機や東日本大震災が重なり、財政難が続いた。しかし、徐々に資金を提供してくれる支援者が増え、民間セクターの力を実感。現在は財政的に安定している。

(3) change agents の萌芽としてのある男子生徒の紹介

- 普通の公立学校から私の学校へ入学した生徒の例を紹介したい。彼は入学1年目、クラスメートの地元がネパール大地震により甚大な被害を受けた際、ネパール人の仲間とともに支援プロジェクトを立案した。
- 他のクラスメートとも協力し、メディカルセンターや13にも上る臨時学校の再建を実施することにつながったが、この例は、教育が若者のマインドにどのような影響を与えるかを示す好例。

(4) 結び

- 今、社会は様々な課題や障害にあふれており、悲観的になるのは簡単である。しかし、未来は自分たちで作るもので、行動を起こさなくてはいけない。高校3年間で生徒たちが自信に満ち、良い変化を起こしていくためのスキルや経験を身につけることを願っている。
- 近い将来、より多くの教育や若い世代の力を実感できるようなプロジェクトが増えていくと信じている。なぜなら岸田大臣もおっしゃっていたように、SDGsの達成には子供や若者のエンパワーメントが鍵となるからである。